

Ⅱ-2 法人化の推進等

法人化の取組

空知管内南幌町は、本道の水田地帯の中で最も平均経営規模が大きい地域ですが、経営規模の更なる拡大に備え、JAなんぼろの主導による農業生産法人の育成が図られ、現在、町内には11の農業生産法人が設立され、町の農業振興の牽引役となっています。

南幌町の法人化は、基盤整備によって、生産性の高い農地を整えてきたことにより促進されました。

◆南幌町における法人化の動きと農業基盤整備の歩み

農業基盤整備の歩み

- ★ 1次整備 昭和20～60年代
 - 大規模な農地開発や排水改良
→農地の確保、洪水被害リスクの低減
 - 区画整理や暗渠排水
→農作業の機械化、水田転作の円滑化
- ★ 2次整備 平成当初～10年代
 - 暗渠排水や農業用排水施設の更新
→1次整備により整えた農地・施設の機能維持
- ★ 3次整備 平成10年代～現在
 - 大区画化のための区画整理や地下かんがい機能を備えた暗渠排水の整備
→農作業機械の大型化、作物選択の多様化

取組を促進

法人化の動き

- ～平成1ケタ代
個別経営体による規模拡大が進み、労力不足が課題。
- 平成12年
農家人口の減少や高齢化に対応、効率的かつ安定的な経営体の創設を目的に、JAに法人化推進のための窓口を設置
- 平成13～18年
平成13年度1法人、平成14年度3法人、平成16年度4法人、平成17年度2法人、平成18年度1法人が設立
- 現在
11法人が活動し、経営面積約1,400ha（町全体の1/4）、構成員53人、従業員128人

◆南幌町における農業生産法人の機能

地域の拠点的役割を担う

- 大型機械と専門オペレーターによる効率的な作業
- 余剰労力や機械力による作業受託
- 離農跡地や規模縮小農家の農地の受け入れ
- 新規作物の導入や6次産業化などの取組
- 新規就農や雇用の受け皿 等々

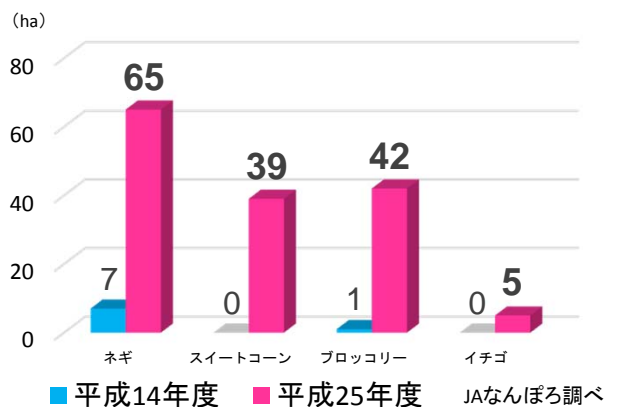
農産加工品の製造・販売



余剰労働力による高収益作物（ネギ）の生産



南幌町における高収益作物作付け面積の推移



大型機械による効率的な作業